



2026. 7 No. 124

- 北海道国有林における森林・林業の普及（技術普及課）
- 民国連携イノベーションによる「新しい林業」の推進（根釧西部森林管理署）
- こんにちは森林官です！（樽前森林事務所）
- 若手職員のコーナー（網走南部森林管理署）

林野庁



北海道森林管理局

北海道国有林における森林・林業の普及

森林整備部技術普及課



北海道森林管理局（ウッディホール）でのイベントの開催



施業指標木の調査の様子

北海道森林管理局では、研究機関と連携し、各試験林などにおいてさまざまな調査を実施しています。また、ウッディホールの一般開放や企画展の開催、森林教室の実施、地域イベントへの参加などを通じて、森林環境保全などに関する普及啓発を行っています。

我らは特命森林調査隊、
人呼んでモリサー。
いざゆかん、森林調査へ！

北海道森林管理局では、森林に関する専門的知識や実践的な調査技術などを有する職員の育成を目的として、「特命森林調査隊（森のリサーチ隊：愛称モリサー）」を結成し、森林管理局が管理する各試験地などに赴き、さまざまな森林調査を実施しながら、現場で知識と技術を磨いています。

モリサーは、研究機関と連携した調査にも参画しており、通常業務では経験する機会が少ない専門的かつ高度な調査に携わることができます。

代表的な調査の一つに、着花（果）調査があります。この調査は、トドマツなどの苗木の安定生産に資するよう、種苗生産者への情報提供を目的に実施しています。

国有林には、苗木生産用の種子を採取する「採種園」がありますが、花（球果）の着き具合が毎年のように異なるため、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター北海道育種場と連携し、着花（果）状況の調査を行っています。調査を通じて、採種園を管轄する森林管理署に加え、近隣署の職員や北海道育種場の関係者との交流も深まり、森林に関する知見の充実にもつながっています。



直径巻尺による胸高直径測定

今年度は、着花（果）調査に加えて、成長量調査（胸高直径・樹高の測定、樹形級区分の判定、各種被害状況の把握）も予定しています。

また、研究機関からの依頼などに応じて、これら以外の調査を実施する場合があります。今後も関係機関と連携しながら、多様な森林調査に取り組み、更なる技術力の向上に努めてまいります。



着花（果）状況の判定基準について目慣らし



開放時間
平日 10:00 ~ 15:00

ウッディホール

北海道産の木材を
ふんだんに使用した
「ウッディホール」

北海道森林管理局の庁舎1階には、北海道産の木材をふんだんに使用した「ウッディホール」があり、一般の方々に開放しています。

ホール内には、木のプールやままごとハウスで遊べる木育コーナー、絵本や漫画を備えた図書コーナー、木製バットの展示コーナー、実際に触れることができる木の標本や種子を展示した樹木紹介コーナーがあり、森林や林業に関する幅広い情報を紹介しています。

また、不定期で企画展を開催しており、今年度は、ホールの利用回数に応じて小さな木製品をお受け取りいただけるよう、ポイントカードの配布も行っています。ぜひ何度でもお気軽にご来場ください！



木育コーナー

図書コーナー

バットコーナー

ウッディホールでは、森林教室も開催しています。5月21日には、札幌市内の小学2年生約100名を対象とした森林教室を実施しました。はじめに、木の太さを測る道具「輪尺（りんじゃく）」や木の輪切り板を用いながら、木が長い年月をかけて成長することや、伐採された木が建物などに利用されていることについて説明しました。



初めてみる道具にも興味津々

その後、展示物を見ながら、木の特徴や木材としての加工・利用方法について解説しました。



樹木標本

児童たちは樹種ごとの色合いなどの違いを発見するなど、楽しみながら学ぶ様子が見られました。

また、ウッディホールにはさまざまな樹種の木材が使用されており、木のぬくもりなどを直に感じていただけたと思います。

北海道森林管理局 R8年度版
木育コーナーポイントカード

4月	5月	6月	7月	8月	9月
10月	11月	12月	1月	2月	3月

※各月1回以上、木育コーナーを利用し、スタンプを3個以上集めた方に粗品（小さな木製品）をプレゼントします。

ポイントが貯まると良いことがあるかも

各種イベント

道内各地で開催されるイベントにおいて、「木の輪切り」や「まつぼっくり」などを使った工作、葉っぱや木材を活用したゲームなど、木に親しむ体験を通じて、森林や林業の魅力を伝える活動を行っています。“楽しい”の先に森林や林業への関心につながる普及活動に取り組んでいます。



木の葉っぱ当てクイズ

カルタ札は道産の木材で作られています！



大人用カルタ



子ども用カルタ



大人も子どもも楽しい工作



「北の森カルタ」で盛り上がる

今後の予定

北海道森林管理局では、今年度、以下のウッディホールの企画展、イベントの出演を予定しています。

《ウッディホール企画展》

《イベント出演》

開催月	内容
10月	市町村が取り組む森林・林業PR企画展（占冠村）
11月	市町村が取り組む森林・林業PR企画展（平取町）

日にち	イベント名（場所）	内容
8月上旬	夏休み子ども体験デー 《札幌第四合同庁舎(札幌市中央区)》	おがくず粘土工作 ほか
10月上旬	道民森づくりの集い 《サッポロさとらんど(札幌市東区)》	葉のしおり作り ほか
10月18日	北海道森林スポーツフェスタ in 千歳 《青葉公園(千歳市真町)》	ウッドボーリング ほか

上記以降の予定や具体的な内容は、開催が近づき次第、[北海道森林管理局のHP](http://www.hokkaido-forest.go.jp/)でお知らせします。

地域課題の解決に向けた取組

民国連携イノベーションによる

「新しい林業」の推進

根釧西部森林管理署

【はじめに】

根釧西部森林管理署は、釧路総合振興局管内の中央に位置し、8市町村にまたがる約 18.2 万 ha の国有林を管理しています。管内は、①釧路湿原の上流域やラムサール条約に登録された別寒辺牛湿原を含むパイロットフォレストなどがある釧路地区、②阿寒富士を源として太平洋へ注ぐ庶路川・茶路川流域の白糠地区、③阿寒湖や雄阿寒岳など阿寒摩周国立公園の中心部及び阿寒川流域に面する阿寒地区、④阿寒山系から屈斜路外輪山をとおり摩周岳にかけての山岳林及び釧路川上流部の弟子屈地区の4つの地区で構成されます。

【地域の課題】

現在、主伐期を迎えた森林が増えていることから、森林（収穫）調査箇所や再造林面積が増加しています。その一方で、地域では林業の担い手不足や労働力不足が続いており、森林整備等の作業を担う人材の確保が大きな課題となっています。

【課題解決に向けた目標】

「伐って、使って、植えて、育てる」という森林資源の循環を確立するため、民間と国が連携して生み出すイノベーションによる「新しい林業」を推進し、先進的な林業機械の活用などにより、造林・育林作業の省力化と効率化を図ることを目標としました。

【課題解決に向けた取組】

これまでに実施した誘導伐の現場では、大型機械による地拵えで生じるカラマツの天然更新稚樹の活用方法や保育方



カラマツ山取苗植栽試験

法について検証し、造林や育林作業の更なる省力化や効率化に向けた取組を実施していきます。



下刈り試験地(令和7年12月現地検討会)

また、森林調査では、地上型3Dレーザーを活用し、従来の調査方法との比較検証を実施し、調査適地の条件を検証していきます。



地上型3Dレーザー調査

【今後に向けて】

造林や育林作業の更なる省力化や効率化を進めるため、天然発生した稚樹の活用方法や保育方法の検証結果を関係機関と共有し、実際の現場で活用できるよう意見交換を行いながら普及を進めていきます。

また、森林調査についても、各種調査方法の比較検証を踏まえ、地上型3Dレーザーの調査に適した条件などを選定し、森林調査の簡素化と効率化を推進するとともに、職員の技術力向上にも取り組んでいきます。

林業の担い手不足が深刻化する中、こうした取組を実践することで、官民連携イノベーションによる「新しい林業」を推進し、現場での省力化や効率化に繋がるよう日々研鑽していきます。

こんにちは 森林官です！



胆振東部森林管理署 樽前森林事務所
森林官 中村美也

【森林事務所の概要】

樽前森林事務所は、樽前山の山頂から麓まで広がる約1万 ha の国有林を管理しています。この地域には、大昔の樽前山の噴火で降り積もった火山灰によってできた比較的平坦な地形が広がっています。一方で、長い年月をかけて雨や雪解け水が地面を削ったことで深い谷がいくつも見られ、平地と谷が入り組んだ独特の地形をしています。水の流れて削られてできた地形は「樽前ガロー」と呼ばれ、地域を代表する自然景観の一つとなっています。

【森林事務所の業務】

現在樽前山の火山活動は比較的静穏な状態がありますが、山頂付近では火山ガスの噴出が続いており、将来的な噴火の可能性も指摘されています。万が一噴火が発生した場合、火砕流が住宅地へ向かうおそれがあるため、地域住民の安全を確保することを目的として国有林内の熊ノ沢に導流堤※を整備しています。この事業は令和4年度から着手しており、今年度末の完成を予定しています。



上空から見た導流堤

また、管轄する国有林の約4割は人工林です。これらの森林の多くは過去の火山噴火等を受けた後に植えられたもので、現在は間伐や主伐の時期を迎えています。森林を健全に育成し資源の循環利用を図るため、日々森林の調査を行いながら伐採や造林の事業を行っています。



間伐期を迎えたトドマツ林

【最後に】

樽前山の山頂からは、樽前森林事務所が管轄する広大な国有林を一望することができます。一見するとどこにでもある山の風景のようですが、よく見ると、間伐を実施した森林、主伐後に苗木を植栽した森林、広葉樹が主体の天然林など、さまざまな姿を確認することができます。天気の良い日には熊ノ沢に整備している導流堤も見ることができます。



樽前山から望む国有林と太平洋

広大な森林の中での仕事は大変なこともあります。自らが管理する森林が遠くまで広がる景色を見ると、このスケールの大きな仕事に携わっていることにとてもやりがいを感じます。

用語解説

※「導流堤」

噴火により発生する火砕流や土石流などが人家や道路へ流れ込むのを防ぐため、流れの向きを安全な方向へ導くための堤防です。

も り 森 林 の 話

若手職員のコーナーです

第41話
網走南部森林管理署
竹本 碧

新規採用で網走南部森林管理署に着任してから、早くも3年が経ちました。日々のどかな畑の風景、そして斜里岳や知床連山といった山々に囲まれて過ごすことができるこの場所は、今では地元以上にほっとできる場所です。

さて今回は少し季節外れではありますが、私が現在所属している峰浜森林事務所（斜里町）において、多くの時間を費やした冬期の現場業務における必需品と業務内容について紹介します。

【冬の業務に欠かせないスノーモビル】

除雪されず雪に閉ざされている林道が多い斜里・峰浜地区では、山に向かうためにスノーモビルが欠かせません。右の写真は私が愛用している一台です。黄色と黒の目立つデザインがとってもクールですよ！



スノーモビルの運転は、方向をコントロールするための腕力と体重移動がとても重要です。素早い体重移動や、風で波打った雪面から伝わる衝撃を和らげるため、走行中は基本的に中腰で立ち乗りをします。私は新雪の林道をまともに走ったのは今冬が初めてで、行く先々で埋まりに埋まり…。運転操作や埋まった所からの脱出など、想像以上に筋力・体力が必要で、とにかく大変でした。危うくスノーモビルが嫌いになりそうでしたが、慣れると気分爽快です♪林道の雪はなかなか解けないため、4月上旬まで活躍してくれました。

【スノーモビルに乗って「地況林況調査」へ】

この日の業務は「地況林況調査」です。これは、5年ごとに策定される国有林の施業方針「国有林

野施業実施計画」を樹立するため、国有林内の木材の蓄積量や植生等の状況を調査し、伐採方針等を検討するものです。1つの森林事務所あたり数百にもなる調査箇所を、約4年半かけて地道に踏査していきます。

今回スノーモビルで向かった先は、斜里岳山麓のとある林内です。この場所は夏になると2mを超える笹が生い茂り、とても歩けたものではありません。そのため、実は冬のほうが調査に適しているのです。

スノーシューを履いて林内を歩き、測点を決めます。その付近にある数本の平均的な樹木の樹種、胸高直径、樹高を記録するとともに、全天球カメラを用いて林内の状況を360度撮影します。この作業を1つの調査地で複数箇所繰り返し、帰所後に専用の集計ツールを用いて、調査地全体の立木本数や木材の蓄積量を算出します。本来は下層植生などの地況も確認しますが、今回は雪で覆われていたので、積雪前の巡視で把握していた情報を踏まえながら、算出結果と併せて施業方針を検討しました。こうした地道な作業が、巡り巡って国土の保全へと繋がっていきます。

【おわりに】

「なぜ冬に山に行くの？」と不思議に思った方もいるかもしれません。でも実は冬だからこそ入りやすい山や、冬に行うのが適している調査もあります。今回はそんな、ちょっと意外な「冬の現場業務」の一面をご紹介しました！

昭和51年植栽トドマツ人工林

平成29年1回目列状間伐実施

林内を撮影する様子



各地からの便り



「各地からの便り」の詳細は

森もりスクエア

検索

ナラ枯れ被害くん蒸処理の実施



【檜山森林管理署】

令和8年4月下旬から5月下旬にかけ、昨年度当署管内で発生したナラ枯れ被害木のくん蒸処理を渡島森林管理署の協力を得て実施しました。くん蒸処理とは、シートで覆った木に、薬剤を気化させながら浸透させ、害虫を駆除する方法です。本年度は職員実行によるくん蒸処理業務を5回に分けて実行しました。くん蒸処理を行った場所の周辺には健全なナラ類が育っており、ナラ枯れ被害拡大防止の取組の大切さを改めて実感しました。



「外国樹種見本林」で森林ボランティア活動



【上川中部森林管理署】

6月5日、旭川市内にある「外国樹種見本林」において、一般社団法人旭川林業土木協会、旭川森人の会、旭川地方森林整備事業協同組合の会員120名による森林ボランティア活動を行いました。この活動は今年で13回目となり、歩道の草刈りやゴミ拾いを中心に作業を行いました。また、見本林の人気の一つでもある、フカフカの歩道の秘密「木材チップ」の敷設作業も行い、利用者が気持ちよく散策できる環境となりました。



「森と湖のまち」で未来につなげる森林づくり



【網走中部森林管理署】

「森と湖のまち」佐呂間町の植樹祭に先立ち、6月9日に佐呂間小学校及び若佐小学校をオンラインでつなぎ、佐呂間町、佐呂間町観光協会及び当署で“植樹祭前木育授業”を行いました。そして植樹祭当日は木育授業を受けた小学生を含む100名を超える町民の皆さんが参加しました。「これでサロマ湖の水がきれいになるね」と、森と湖のつながりをまっすぐ受け止めた小学生の一言に、心があたたかくなりました。



コンテナ苗の勉強会を開催しました ～未来の森林を育てる一歩～



【根釧東部森林管理署】

5月26日、別海町内の苗木生産者協力のもとコンテナ苗の勉強会を開催しました。コンテナ苗の育て方や生産の流れ、出荷に至るまでの工程について説明を受けた後、実際に苗をコンテナに移植する作業を体験しました。苗が小さく繊細なため、根や茎を傷つけないよう苦労しながら慎重に移植しました。年間10万本以上を移植されているとのことで、果てしない努力の積み重ねで森林が成り立っていることを改めて実感しました。



広報 「北の森林 国有林」 7月号
発行 林野庁北海道森林管理局
編集 総務企画部 企画課

〒064-8537

札幌市中央区宮の森3条7丁目70

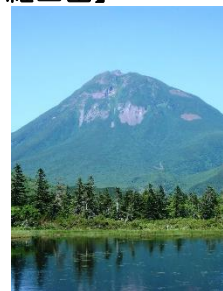
電話 011-622-5213

HP <https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>



【今月の表紙 羅臼岳】

今月の表紙は、知床半島にある羅臼岳です。登山される際の情報や注意事項は、環境省のホームページ「[知っておくべき知床登山の心得](#)」をご覧ください。



今月の表紙